



台北市内に開設した東京未来スタイルの台湾事務所が入居するビル（同社提供）

東京未来スタイル

台湾に事務所開設

薬の輸出入や商品開発

貿易商社の東京未来スタイル（つくば市千現、遠藤隆社長）は台湾に本格進出する。先月、台北市に事務所を開設した。主力の研究用試薬や診断薬原料などの輸出入業務を一層強化するほか、国内外企業や大学とのネットワークを生かし、新商品の開発に取り組み。新拠点を足掛かりに東アジア・太平洋地域での市場開拓を目指す。

台湾事務所は9月1日付で、台北市内のビルに開設した。現地商社のネットガードテクノロジー社と提携し、輸出入業務や商品開発などに取り組み、将来的には現地法人化を目指す。同社の海外拠点開設はオランダに続き2カ所目。

台湾進出について、遠藤社長は「研究試薬分野の投資に積極的で、新技術や新商品に対する反応が早い。市場を開拓する上で魅力があった」と説明する。

公的機関や企業、大学など多様なネットワークを

構築してきた同社は2007年の設立以来、主に研究用試薬や診断薬原料、臨床検体などの輸出入業務を行ってきた。 Dengue熱やシカ熱、エボラ出血熱といった感染症分野をはじめ、がん治療や再生医療など幅広い分野を取り扱う。

国内バイオベンチャー企業の委託を受け、各社製品の海外市場調査や輸出販売を手掛けるなどして事業を拡大し、14年には欧州進出を果たした。欧州の大学や企業と連携し新製品の開発

や欧州発ベンチャーが開発した商品を日本に輸入している。来年1月にもオランダに現地法人を立ち上げる予定だ。

同社は欧州市場に次ぎ、台湾で市場開拓を進める。遠藤社長は「これまでに培ってきた事業を拡大するため、新事務所を東アジア・太平洋地域に進出する足場として、欧州、日本、アジアの新しいビジネスモデルの開発に携わりたい」と抱負を話した。

（松崎亘）